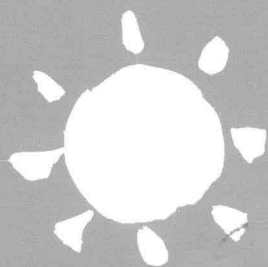


日本作文の会編

日本の 子どもの詩

鹿児島





日本作文の会編

日本の
子どもの詩

鹿児島

岩崎書店

日本の子どもの詩 46 鹿兒島

一九八二年三月一五日 初版發行

編者 日本文文の会

發行者 森山甲雄

印刷所 株式会社 K・M・S

株式会社 金羊社

製本所 小高製本工業株式会社

發行所 岩崎書店

東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八二二・九三二(代)

©1982 Nippon Sakubun no kai 〔分〕8392 〔製〕108046 〔出〕0360
—Published by IWASAKI SHOTEN, TOKYO, Japan—

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもたちの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などもよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの「わらべうた」）としても、大きな意味があります。

わたしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「鹿兒島編」であります。どうぞ、ひとつひとつついねいにお読みください。

もくじ



1918
～
1945

8

鳥のおばさん
夕方のすずめ
夕方

9

にわとり
バツタ
シロ山
クサツバラ

10

七コウノオタマジャクシ
てつだい
田んぼ道
わらうち

11

自転車
オトウサンノオカエリ
ゆりの花
ソラ

12

七コウノホリ
つばめ

13

たいほうの花火
夜の電車
ごはんつぶのかみさま
海の中の岩
たきぎわり

14

牛
おとうさん
夜の麦ふみ

15

ハナビ
我が家の生活
河野清二君の霊に捧ぐ

16

ジテンシャ
ヘントウセン
たか

17

赤ちゃん
煙草畑のお父さん

18

たる
夜
停車場

19

大風の後
港の荷上場
煙草の施肥

20

脱穀機
まぐさ切

21

ときび
父の手

22 先生

ホシタカサ

23 干草切

西郷さんの銅像

馬の御飯

24 薪取り

三日月

子もり

25 暖かい日

渡り鷹

26 軍用犬訓練

防空訓練



1945
～
1959

28 せんせい

山 山びかり

29 麦とり

海に麦が生えている

30 里芋畑

にぐるま

くさむしり

31 おとうさん

32 城山

お友だち

疎開の思い出

でたち

33 おもちゃやさんごっこ

かいすいよく

34 さとうまび

ブルトーザーの力

35 にいさんのかまぼこつくり

36 桜島大根

きょうも大漁だ

めひるぎ

37 かんにんな

海

38 フランスの原爆

39 馬

かに

ていでん

40 えんそく

かたつむり

41 おつかい

げんきんふうとう

42 ガリレイ・ガリレイ

雲

43 船

霧の朝

44 夕日

麦ふみ

45 進路

ゆき

さふらんのはな

46 かじ

木

47 今晚も魚つりに

ろばのパン

干拓

48 製材所

桜島爆発

49 姉のよめいりの日の朝

鉄ぼう

茶の香り



1960
～
1969

52 みずあそび

おこりんぼちゃん

おちゃ

53 やかん

雨

子を売られた親牛

54 えんとつそうじ

交通じこ

55 ゆうかい

ある日のわたし

56 九月のある朝

草取り

57 ベトナム少年の死

うし

58 うし

はたおり

59 水たまり

まきわり

60 つまみぐい

そうぐみがき

61 製鉄所

桜島熔岸道路を通過

62 悲しみ

地下たび

63 ベトナムの幼い友へ

からいも

64 さつまいもとり

ゆうやけ

65 いもほり

ごはんたき

66 足もみ

いねかり

78 77 76 74 73 72 71 70 69 68 67

草焼き

オリンピックとおとうさん

雲と空

台風

田車おし

乾燥場

母の足

およめさん

うしの子

いやなこと

さんかん日

たからもの

にんじん

もちつき

ここに

戦争の悲劇が

十五歳



1970

～

つくしんぼう

てる島こうえんのしか

内之浦からロケットがあげられた

くらのせと

私

お父ちゃん

79 原爆の映画をみて

春

80 新聞配達

麦畑

81 牛あらい

牛よ

82 長崎にて

83 ありのす

84 早くおとなになりたい

黒ねこ

へび

85 土曜日の午後

おかあさん

86 きりのない はいこぞう

珠算検定

たけんこ

へび

88 しかったいのおばさん

おじいさんの顔

89 かぶと虫

くすりかけ

90 桜島みかん

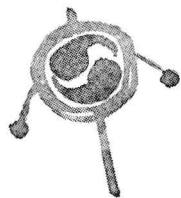
にじ

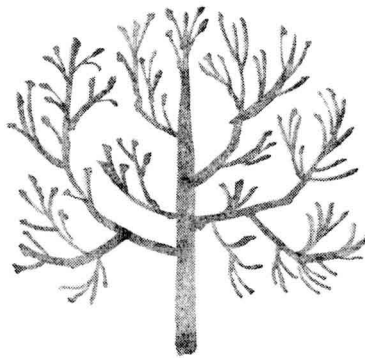
91 とうだい

夕やけ

- 92 ふろ
もみから運び
台風
93 子ねずみ
94 おとうさん
95 父が船に行く
オランダエンドウ
96 夢
97 ぼくとまなべ君のひみつ
帰ってきた夜
牛
98 雨の中を
99 田島君ときたらたいしたもんだ
100 小さないもうとがほしいな
けんか

- 101 どぶ川
雪
102 冬のあり
雪
103 夕やけのトラック
成人の日で考えたこと
104 雪
灰
105 新聞配達
長崎
- *
- 107 あとがき——鹿児島県の児童詩指導の歩み
110 この本の編集をした人たち





1918～1945

(大正7年)

(昭和20年)

* 「赤い鳥」に鹿児島県の子どもの詩が出はじめた。

* 鹿児島市の鹿児島尋常高等小学校で「我等の学園」という文集が発行され、全県的に子どもに詩を書かせることが盛んになった。

* 日本で最初の子どもの詩の専門誌である「童詩教育」が鹿児島で創刊され、鹿児島の児童詩教育が全国的に注目されるようになった。

* ここには、このころの鹿児島の子どもたちの詩があり、全国的に有名になった「クサツバラ」(イケダシヨウゾウ 小1)などの作品がある。

鳥のおばさん

とりのおばさん
五色の服をきて、
手かごを持って
出て行った。

吉永鉄男 小4

遠い遠い町に、
とりのおばさん
言うことにや、
八百屋に行こか、
いやいや魚買いましよ、
手かごに魚入れましよ。

鹿児島市山下校

夕方のすずめ

夕方になった。
雀すずめが風かぜに吹きとばされて、

川原初枝 小4

向うの竹山へおちた。

またとびだした。

また吹きとばされた。

しまいにとうとう見えなくなった。

伊佐郡曾木校

夕方

兄きょうもんが経文をよんでる。

ひざまづいて

いれば、

うぐいすが鳴くよ。

障子しょうじが白く

光るよ。

木の下徳二 小6

肝属郡佐多校

にわとり

にわとりは

丸山五男 小2

かこの中で
日がくれる
日がくれる

川辺郡玉林校

バッタ

イワマツミツエ 小1

イマ

バッタヲツカマエテイタラ、
モウセンセイノハオリニ
トマツテル。

肝属郡神山校

シロ山

オヒラノシズオ 小1

シロ山ノ上ノ
ハダカノ木ハ、
サムソウダ。
カワガムケテ

ホネガデテ。

鹿児島市鹿児島校(指導)有村等

クサツパ

イケダシヨウゾウ 小1

アア、
(クサガアタタカイ)
クサガヌツカ。
(ニオイガスルゾ)
ニエガスト。

鹿児島市鹿児島校(指導)永野武義

七コウノオタマジャクシ

イノウエタカノリ 小1

七コウノ
オタマジャクシハ
オモシロイ。
アタマバツカイオオキクテ、
シツポデオヨグ。

鹿児島市鹿児島校(指導)副田凱馬

てっだい

是枝則男 小3

おかあさんは

まだ夜の明けないうちに魚売りに行かれた。

ぼくは

おかあさんのくうて行かれたよごれ茶わんを

あらった。

茶わんはきちきちとよい音がした。

肝属郡高須校(指導)木下青久

田んぼ道

日置孝次郎 小3

牛がおった足あと、

大きな足あとだ。

つめのわれているところは

ずっともちあがっている。

人の足あと、馬の足あと、たくさんある。

牛のくそもある。

田んぼ道はぬくい。

掛宿郡大成校(指導)田代徹也

わらうち

堂園誠一 小3

わらがまだ六わある。

それをうつのだ。

ぼくたちは「こつつん、こつつん」

みんなげんきそうにうっている。

電とうのあかりに照らされてうっている。

くらぶの中では、

青年の人たちの十五夜のかえりだ。

肝属郡神山校(指導)竹野良夫

カライモ

篠原サチ子 小1

ウエノデ

カライモヲチギツタラ、

手がマツクロニナツタ。

手が

カライモノ(ニオム)ニエガシタ。

肝属郡神山校(指導)安山ソノ

自転車

僕を乗せた貞二さんの自転車は

身軽に

すうすうと空気を切って

一本道を進んでいる

ずぼんの中に冷い空気が入って

足がひやひやする

貞二さんは

軽くペダルをふんでいる

肝属郡神山校(指導)出水田静雄

オトウサンノオカエリ

コミヤアキコ 小1

イヅロノカドデ

II

デンシヤカラオリルヒトヲ

ミテイタラ

ミンナヨソノオジサン。

オトウサンノオカエリ

オソイナ。

鹿児島市鹿児島校(指導)町田チカ

ゆりの花

おせきのかびんのゆりの花

まっ白で

たべられそうだ

佐藤耕三 小2

鹿児島市鹿児島校(指導)副田凱馬

ソラ

シオカワテツ一 小1

シロ山(2) サカヲ ノボレバ

空ガ ヒククナル

アセガ出タ。

鹿児島市鹿児島校(指導)永野武義

七コウノホリ

ツマガリソウ一ロウ小1

七コウノホリニ

イシヲナゲタ

ドブン

ウキグサガチラバツテ

青イソラガミエタ

鹿児島市鹿児島校(指導)榊山国親

つばめ

若松貞光 小2

つばめが、

ほりの水を「シャツ」ととばして

とんでいった。

鹿児島市鹿児島校(指導)副田凱馬

たいほうの花火

三増弘幸 小3

火をつけてにげてきた。

火の子が

ふん水のようにちるよ。

「だん」

とはれっした。

石の間から

白いけむりが

ぽーっと出た。

鹿児島市鹿児島校(指導)平峯敏一

夜の電車

沖利泰 小4

夜の電車

電せんの中から青い火

ぱっぱつと光る

ごうごうなる車輪から

ぱちぱちと

白い火を出して

電車が通る

電車の中は

明るい

鹿児島市鹿児島校(指導)池之上重彦

ごはんつぶのかみさま

からになったためしびつ

母が

ごはんつぶには

三人の かみさまがはいっている

とおっしゃった

何と小さい

神様きつと皆のおなかに

一ぱいだろう

肝属郡神山校(指導)竹野良夫



海の中の岩

山口久子 小5

海の中の岩、

波が動く度に、

かめが泳いでいるようだ。

鹿児島市鹿児島校(指導)早田厚己

たきぎわり

原口鉄雄 小5

おの
斧をふり上げた僕

体中汗びっしりだ

夕飯のごちそうのにおいが

ぶーんとしてきた

僕はこのりのたきぎをみて

ふり上げる斧をすんとおろした

父がにっこり笑って僕をみていた

大へんやさしい口もとだった

僕はおかしくなったので

向うの方へ向きなおった

鹿児島市鹿児島校(指導)山元智

牛

島田直良 小6

牛が

街路樹がいろじゆの陰かげで

眠ねむっている

アイスケーキがよんで通っても

自転車が鈴をならしても

自動車がかけぬけていっても

牛は

半分眼をあけたまま

眠っている

鹿児島市鹿児島校(指導)島田一春

おとうさん

柏木保子 小2

おとうさんは

14

三しゅうかんばかりしゅっちようだった。

私はおとうさんがめずらしかった。

おとうさんのかおが

すこしちがったように見えた。

鹿児島市清水校(指導)磯長武雄

夜の麦ふみ

窪田義雄 小3

お父さんは

夜おそくまで麦をふんでいる。

お父さんは

月が出やせんかと

あすここを見まわしている。

月はやつと岩の上から出て来た。

おとうさんは

月をありがたそうに

麦をふんでいる。

また月がへらせんかと

心配している。

肝属郡神山校(指導)磯長武雄